茶豆風味エダマメにおける作型毎の高品質化技術の確立

【研究概要】

江東地域では、農協直売所が開設されて以降、エダマメを直売所に出荷する生産者が増え、各作型を組み合わせ５月～11月まで出荷されている。食味が良い茶豆風味品種の生産が伸びているが、作型によっては、低温による減収や病害が多発し、特に半促成・抑制栽培では、３粒莢率が低下する。このため、生産者からは茶豆風味品種の作型毎に適した品種選定や安定生産技術の開発が求められている。

そこで、茶豆風味品種における作型毎の適性品種と栽培方法について検討し、莢数、３粒莢率の向上と作業性（草丈、倒伏性、在圃性）に効果の高い技術を確立することを目的に試験を実施した。

（１）１月中旬播種によるハウス半促成栽培では、収量性が高い「おつな姫、あまおとめ」が有望であった。また農ビのトンネル被覆や水封マルチの併用による保温処理は無処理に比べ収量は低下するものの、約２週間程度の収穫時期が促進した。

（２）７月上旬播種の施設栽培では、「ゆかた娘、つきみ娘」は収量が70kg/a以上と多くなったが、「つきみ娘」は倒伏性もある。収量性と倒伏性の観点から「ゆかた娘、あじほこれ、神風香」が高温期の施設栽培では有望であった。

（３）初生葉出芽期に移植した「湯上り娘、陽恵」はともに５節での摘心処理により、無処理と比べ草丈を低く抑えながら、無処理とほぼ同等の収量が維持できた。